

主に任せ主に委ね、心優しく穏やかに

マタイ 5:5, マタイ 11:28-30、詩編 37:1-6, 23-24

柔和とは

山上の説教の中 8 つの幸いの内、柔和な人々は幸いです、その人々は地を受け継ぐ。

詩編 37:11、「貧しい人は地を継ぐ」。この貧しい人を口語訳聖書では、柔和な者と訳している。貧しいと柔和とは、ほぼ同じ意味のことば。聖書が言う貧しいは、経済的貧しさでなく、心が貧しいこと。マタイ 5:3、「心が貧しい人々は幸い」とある。心が貧しいとは、神がおられることが分からない。神は愛だと言われても、なおさら分からない。人は本来、神との関係は壊れている。神と断絶している。このことで、心打ちひしがれて、神を尋ね求める人。このような人が心の貧しい人、柔和な人。だから、柔和な人は、大いなる神の前に謙遜にへりくだり、跪（ひざまず）いて、神を尋ね求める人。日本語で柔和とは、心優しく、穏やかであること。反面、弱々しいイメージもある。しかし、原文のギリシャ語の柔和は、①神の前にへりくだる謙遜さ②隣人と共に生きて平和な関係を築く強さ③敵対心をも克服して和解する逞（たくま）しさ④人のために痛み傷つくことを厭（いと）わない勇気⑤軽やかに行動するのだけれど、内に秘めている情熱。これが聖書のいう柔和。

私たちは、柔和でありたい、心優しく穏やかでありたい。周りの人々にもそうあってほしい。そうなれば、争い、いさかいもなくなり、世界は平和になり、幸いな人生を生きることが出来る。主は、「柔和な人々は幸いです」といわれる。これは、「柔和な人々は幸いで、柔和でない人々は不幸だ」と。このようなことを主は言っておられるのではない。主は、すべての人々を柔和へと、幸いへと、地を受け継ぐ祝福へと招いておられる。

招詞：マタイによる福音書 11:28-30、主はご自身のことを柔和だと。（新改訳聖書：心優しくへりくだっている）だから、わたしのところに来なさい。休ませてあげようと。また、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ますと言って、休息と安息へと招いて下さっている。この世の現実の有様、悪や不正が

満ちている有様は私たちに疲れさせる。また、自分を振り返っても、自分がかかりし、起き上がれないと思う時。がんばっても力尽きて、諦めてしまいたい時。多くの責任に押し潰されてすべてを手放したいと思う時。そんな時、私たちは主の招きに応えて、主の下に身を寄せ、主から学び、主から休みと安らぎを得て、主が生きられたように、生きていきたい。「わたしから学びなさい」と主は言われる。私たちは、主イエスから何を学ぶのか。マタイによる福音書 27:11-14, 十字架に付けられる前、主は、ローマ総督ピラトに尋問された。その時、当時のイスラエルの支配階級であった祭司長たちから不当に訴えられていても、主は何もお答えにならなかった。27:14, ピラトは「非常に不思議に思った」と。ペトロ第一 2:3, 主は罵（ののし）られても、罵（ののし）りかえさず、正しくお裁きになる方にお任せになった。それは、私たち全人類の罪をその身に負い、自ら十字架にかかるためだった。また、その為に主は天の父の神を信頼して、すべてを委ねておられた。

このような主は、語るべき時には、弟子にも敵対する者にもはっきり語っておられる。マタイ 23 章では、律法の専門家を激しく非難しておられる。23:3, 彼らの言うことは行い、しかし、彼らの行いは見倣（みなら）ってはならないと。言っていることとやっていることが違っていた。言行不一致は偽善だと非難しておられる。主は、これを弟子たちや群衆に向かって語っておられる。だから、弟子たちや群衆を正しい道に導くために語られたのだった。一方、主は子供、未亡人、病に苦しむ人とか立場の弱い人々には、どこまでも優しいイエス様であられる。

地を受け継ぐとは

受け継ぐとは、自分のものにする、所有する、保つ、取る、守ること。地とは、今私たちが住んでいるこの地、この世界のこと。私たちは、やがてこの地、この世界を自分のものとして所有すると約束されている。解説書を見ると、「受け継ぐ」のギリシャ語の動詞の時制は、未来形が使われている。ギリシャ語の未来形は、将来必ずそうなるという断定的表現であるので、正確に訳すると、「必ず地を受け継ぐ」となる。マタイ 5:9, 「平和を実現する人々は幸いです。彼らは神の子と呼ばれる」。ここも正確には、「必ず神の子と呼ばれる」。このイエス様の約束は、主の十字架の死と復活によって、もうすでに実現して、私たちは、今既に神の子とされた。神の

子はやがて父の神様から相続財産を頂く。従って、新改訳聖書では、「地を相続する」とある。この地は、この世界は、最後の完成に向かっている。主の日とか言われる終わりの日に、主イエス・キリストが再び来られる再臨の日がやって来る。その日に何が起こるのか。テサロニケ第一 4:16-17, 「合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主ご自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、それから私たち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、私たちはいつまでも主と共にいることになります」。主の臨在を覚えながら空中携挙される。この地に神の国が完成する。神の完全な支配が実現する。そして、私たちは、この完成された神の国を自分のものとして受け、永遠の命を得る。

詩編 37 篇

詩編 37 篇全体は、マタイ 5:5 を解説している。ダビデの詩。ダビデは BC 1 千年ごろの人。今から 3 千年も前の人。今も昔も、人も人の世も変わっていない。

- ① (うらやむな、いら立つな) 37:1-2, 7b-8, この世には、悪が満ち、不正がはびこっている。悪いことをしても、要領よく世渡りして繁栄している者もいる。私たちはそれを見て、憤慨して怒るかもしれない。しかし、ダビデは私たちに勧める。いら立つな。うらやむな。怒りを、憤りを捨てよ。そして、自分も同じように悪を謀(はか)ろうとするな。
- ② (主に目を注ぐ) 37:3-5a, 7a。主に信頼し、主に委ね、主に任せる。主の前に静まって、耐え忍んで主を待ち望む。
- ③ (善を行う) 37: 3 a, 27, 37。周りがどんなに悪に染まって、不正がはびこっていても、私たちは悪を避け、善を行う。物事をまっすぐに素直に見る。ヨハネの黙示録 22:11, 「この書物の預言の言葉を、秘密にしておいてはいけない。時が迫っているからである。不正を行う者には、なお不正を行わせ、汚れた者は、なお汚れるままにしておけ。正しい者には、なお正しいことを行わせ、聖なる者は、なお聖なる者とならせよ」。私たちは、益々善を求め、正しさを、清さを求める。夜の闇が濃くなればなるほどに、星の光がなおその輝きを増すように、正しい者

はいよいよ正しくなり、聖い者はいよいよ聖い者になっていくようにと。これが、世界が完成に向かっていく中でのキリスト者の生き方、生き様。

- ④ (地を受け継ぐ) 37:9b, 11, 22, 29, 34 主に望みをおく人。心の貧しい人。神の祝福を受けた人、つまり幸いな人。主に望みをおき、主の道を守る人。このような人が、地を受け継ぐ祝福を受ける。

主に委ね主に任せて

主イエス・キリストが再び来られる再臨の日。それは主の日、終わりの日。その日まで、この地はこの世界は、最後の完成に向かっている。やがて、神の豊かな愛が世界を支配する。完全な神の支配が実現する。私たちは、今現在私たちが生きるこの地、この世界において、やがて完成された神の国を受け継ぐ祝福に与かる。

地を受け継ぐことは、①やがて将来与えられる祝福。②今現在、この希望を握って、足を地にしっかり着けて生きること。悪や不正に対して、闘う時もある。主がそうであられたように言うべきことを言うべき時には、はっきり言う。しかし、注意したいことは、①言いたいことを言うのではないし、②憤慨して怒るのでもない。祈りによって、主から知恵と清さと愛を頂く必要がある。

今も神は世界を統(す)べ治めておられる。(詩編 22:29) 私たちは神が支配されている世界に生きている。この世に悪や不正が満ち、自然災害が起こるし、不条理と思えることもたびたび起こる。このような中、私たちは、私たちの身に起こるすべてのことを信仰をもって受けとめる。①すべては主の愛のみ手の中で起こっている。②主は私たちに対して、計画と目的をもっておられる。それは将来と希望を与えるもの。③私たちに起こることは、マイナスと思えることもすべてプラスに変えられる。(ローマ 8:28)

主イエスは、罵(ののし)られても、罵(ののし)りかえされなかった。それは、正しくお裁きになる方にお任せになったから。(ペトロ第一 2:3)、私たちもそのように、主に委ね主に任せ、心優しく穏やかでありたいと思う。